

オーストリア

Republic of Austria

	2010年	2011年	2012年
①人口:849万人(2013年初)			
②面積:8万3,879km ²			
③1人当たりGDP:4万7,083米ドル (2012年)			
④実質GDP成長率(%)	2.1	2.7	0.8
⑤消費者物価上昇率(%)	1.7	3.5	2.6
⑥失業率(%)	4.4	4.2	4.4
⑦貿易収支(100万ユーロ)	△ 3,181	△ 7,501	△ 6,930
⑧経常収支(100万ユーロ)	9,740	4,081	5,465
⑨外貨準備高(100万米ドル, 期末値)	9,589	10,987	12,232
⑩対外債務残高(グロス)(100万ユーロ, 期末値)	598,302	610,870	612,506
⑪為替レート(1米ドルにつき, ユーロ, 期中平均)	0.7550	0.7194	0.7783

〔注〕⑦⑧:国際収支ベース, ⑦:財のみ

〔出所〕①②④~⑥:オーストリア統計局, ③⑨⑩:IMF, ⑦⑧⑩:オーストリア国立銀行

2012年のオーストリア経済は、欧州債務危機の長期化による影響で内需が冷え込み、実質GDP成長率は0.8%にとどまった。貿易は、輸出入ともに過去最高額を記録し、貿易赤字は縮小した。対内・対外ともに直接投資は大型案件が少なく、投資額は前年を大幅に下回った。対日貿易は輸出が過去最高額となった一方、輸入は自動車市場の不振から減少した。日本からオーストリアへの投資は、前年より増加した。

■ 個人消費、設備投資意欲の冷え込み顕著に

2012年のオーストリアの実質GDP成長率は0.8%の低成長にとどまった。GDPを需要項目別にみると、欧州債務危機の長期化による消費マインドの冷え込みや、過去数年、賃金上昇率が低く抑えられてきたことなどから民間最終消費支出が0.4%増と低迷した。前年大幅増となった設備投資も0.3%増にとどまったが、建設投資が1.2%増になったこともあり、国内総固定資本形成も1.2%増となった。財貨・サービスの輸出は1.5%増と前年の7.2%増を大きく下回ったが、サービス輸出が5.4%増と堅調だったこともあり、財貨・サービスの輸入(1.0%増)を上回る伸びとなって景気を下支えした。

消費者物価上昇率は2.6%と2011年の3.5%から沈静化した。年後半に石油価格が落ち着き、インフレ圧力が弱まったことによる。失業率は4.4%と前年より0.2ポイント上昇したが、EU最低の水準を維持している。

表1 オーストリア主要経済指標

	2011年	2012年	2012年				2013年
			Q1	Q2	Q3	Q4	
実質GDP成長率	2.7	0.8	2.2	0.1	0.4	0.7	△ 0.7
民間最終消費支出	0.7	0.4	2.0	0.1	0.0	△ 0.5	△ 1.3
政府最終消費支出	0.1	0.4	3.7	0.9	△ 3.2	0.4	1.0
国内総固定資本形成	7.3	1.2	3.6	0.9	0.4	0.1	△ 2.7
設備投資	12.1	0.3	5.2	1.7	△ 3.9	△ 1.4	△ 6.9
建設投資	4.4	1.2	2.0	△ 0.1	2.8	0.4	0.0
財貨・サービスの輸出	7.2	1.5	1.9	0.6	2.3	1.3	1.0
財貨・サービスの輸入	7.2	1.0	2.0	1.6	0.0	0.6	△ 2.0

〔注1〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕オーストリア経済研究所(2013年6月)

■ 米州、新興国向け輸出が好調

2012年の貿易は、輸出が前年比1.4%増の1,234億7,000万ユーロ、輸入が0.7%増の1,319億6,400万ユーロだった。輸出入とも過去最高額となり、輸出の伸びが輸入のそれを上回ったため、貿易赤字は84億9,400万ユーロと前年の92億3,400万ユーロから縮小した。

輸出を品目別にみると、全体の38.0%を占める機械・輸送用機器が前年比1.8%増だった。一般機械(構成比6.3%)、産業用機器(5.8%)はそれぞれ6.2%増、6.5%増と堅調だったが、最大品目の道路輸送用機器(8.3%)は0.4%減となり、電気・電子機器(6.8%)と原動機(5.2%)もそれぞれ3.4%減、3.6%減と不振だった。道路輸送用機器の低迷は最大の輸出先であるドイツ向け(34.2%)が3.7%減と不振だったことに加え、ユーロ圏、中国、ロシアなど多くの国向けで減少したことによる。原料別製品(22.8%)も1.2%減と低調だった。特に鉄製品(5.7%)が4.1%減少した。これも最大の輸出先であるドイツ向け(32.8%)が3.1%減少したことに加え、イタリア、フランス、スイスなど、主要輸出先の機械産業が不振だったことによる。化学品(13.4%)は5.6%増と好調だった。医薬品(5.9%)が11.0%増と好調だったため、スイスの医薬品大手ノバルティスの子会社であるサンド・オーストリアが生産するバイオ後続品の輸出増などによる。燃料・エネルギー(3.7%)

表 2 オーストリアの主要品目別輸出入

(単位: 100 万ユーロ, %)

	輸出				輸入			
	2011 年	2012 年(暫定値)			2011 年	2012 年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送用機器	46,072	46,901	38.0	1.8	41,714	41,905	31.8	0.5
道路輸送用機器	10,264	10,219	8.3	△ 0.4	12,840	12,561	9.5	△ 2.2
乗用車	3,808	3,814	3.1	0.2	6,950	6,766	5.1	△ 2.6
同部品	3,675	3,771	3.1	2.6	3,622	3,551	2.7	△ 2.0
電気・電子機器	8,699	8,406	6.8	△ 3.4	7,294	7,468	5.7	2.4
一般機械	7,372	7,831	6.3	6.2	6,598	6,584	5.0	△ 0.2
産業用機器	6,672	7,105	5.8	6.5	3,734	3,701	2.8	△ 0.9
原動機	6,693	6,449	5.2	△ 3.6	3,424	3,385	2.6	△ 1.1
原料別製品	28,515	28,159	22.8	△ 1.2	21,516	20,351	15.4	△ 5.4
鉄製品	7,372	7,071	5.7	△ 4.1	4,189	3,803	2.9	△ 9.2
金属製品	6,291	6,413	5.2	1.9	5,101	5,158	3.9	1.1
紙製品	4,031	4,182	3.4	3.7	1,960	1,970	1.5	0.5
非鉄金属製品	3,732	3,609	2.9	△ 3.3	4,389	3,672	2.8	△ 16.3
化学品	15,617	16,496	13.4	5.6	16,163	16,487	12.5	2.0
医薬品	6,573	7,293	5.9	11.0	6,008	6,410	4.9	6.7
雑製品	13,970	13,834	11.2	△ 1.0	18,056	18,095	13.7	0.2
燃料・エネルギー	4,112	4,530	3.7	10.2	15,660	17,338	13.1	10.7
原油・石油製品	1,778	2,134	1.7	20.0	9,725	10,913	8.3	12.2
天然ガス	1,173	908	0.7	△ 22.6	3,785	4,398	3.3	16.2
食品・動物	6,358	6,679	5.4	5.0	7,422	7,913	6.0	6.6
原料	3,988	3,839	3.1	△ 3.7	6,709	6,293	4.8	△ 6.2
コルク・木材	1,520	1,373	1.1	△ 9.7	1,341	1,306	1.0	△ 2.6
繊維・繊維くず	793	708	0.6	△ 10.7	96	81	0.1	△ 15.6
鉄鉱石・金属くず	692	751	0.6	8.5	3,148	2,865	2.2	△ 9.0
飲料・たばこ	1,767	1,787	1.4	1.1	882	928	0.7	5.2
その他製品	1,145	1,039	0.8	△ 9.3	2,388	2,212	1.7	△ 7.4
動植物性油脂	230	206	0.2	△ 10.4	496	442	0.3	△ 10.9
総額(その他含む)	121,774	123,470	100.0	1.4	131,008	131,964	100.0	0.7

〔注〕 EU 域外貿易は通関ベース(輸出は FOB, 輸入は CIF), EU 域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

〔出所〕 オーストリア統計局

も 10.2%増と大幅に伸びた。原油・石油製品(1.7%)が 20.0%増となったほか、電力(1.2%)も 28.2%増と大幅に増加した。

輸出を国・地域別にみると、EU27 が全体の 68.1%を占めるが前年比 0.8%減と縮小した。最大の輸出相手国はドイツ(構成比 30.6%)で、2 位はイタリア(6.8%)、3 位は米国(5.6%)だった。ドイツ向けは多くの品目で減少し 0.5%減だった。特に道路輸送用機器、原動機、非鉄金属製品の減少が影響した。イタリア向けも 9.6%減と不振だった。鉄製品、コルク・木材などの原材料や天然ガス、道路輸送用機器などが大幅減となったことによる。米国向けは 8.6%増と好調だったが、これは道路輸送用機器、医薬品、産業用機器など多くの品目で 2 桁台の伸びだったことによる。フランス向け(4.6%)も 13.2%増と好調で、ユーロ圏で唯一大幅に伸びたが、医薬品の輸出増が主因だ。ロシア向け(2.6%)も 10.2%増と好調だった。鉄道車両などを含む「その他の輸送機器」(4.7%)が前年の 4.6 倍、鉄製品(4.5%)も 3.2 倍と大幅な伸びとなったことによる。ロシア向け以外にも新興国や途上国向けが順調に拡大し、ASEAN 向け(1.3%)が 15.0%増、中南米向け(1.7%)が 24.7%増、アフリカ向け(1.3%)が 11.9%増と拡大した。

一方、輸入を品目別にみると、輸出同様、機械・輸送用機器(構成比 31.8%)が最大品目だが前年比 0.5%増にとどまった。中でも道路輸送用機器(9.5%)は個人消費の低迷を反映して 2.2%減となった。設備投資の冷え込みから一般機械(5.0%)、産業用機器(2.8%)ともそれぞれ 0.2%減、0.9%減となった。原料別製品(15.4%)も 5.4%減となった。これは国内の生産停滞から鉄製品(2.9%)、非鉄金属製品(2.8%)がそれぞれ 9.2%減、16.3%減と大きく減少したことによる。これに対して燃料・エネルギー(13.1%)は 10.7%増加した。厳冬と価格高から原油・石油製品(8.3%)と天然ガス(3.3%)がそれぞれ 12.2%増、16.2%増と伸びたことによる。

国・地域別にみると、EU27 が 70.4%を占めたが前年比 0.7%減と微減となった。輸出同様ド

イツ(構成比 37.5%)とイタリア(6.2%)が 1 位と 2 位を占めたが、それぞれ 1.0%減、3.9%減となった。ドイツからの最大輸入品目である道路輸送用機器、2 位の一般機械がともに減少した。オーストリアは多くの品目においてドイツを最大の輸入相手国としており、道路輸送用機器の 42.9%を輸入している。中国(5.1%)と韓国(0.6%)はともにスマートフォン人気から通信・録音機器が急増し、それぞれ 5.8%増、27.5%増となった。特に韓国は同品目(34.7%)が 94.2%急増したことに加え、道路輸送用機器(30.2%)も 38.6%増となった。ロシア(3.1%)からは、天然ガス(68.6%)が 28.9%増大したことから 22.8%増と伸びた。オーストリアは天然ガスの 74.2%を同国から輸入している。アフリカ(1.9%)は、リビアからの石油輸入が再開し 15.2%増となった。

■ 対内・対外直接投資はともに縮小

オーストリア国立銀行によると、2012 年の対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は前年比 40.0%減の 49 億 1,500 万ユーロと縮小した。

業種別にみると、製造業が前年の 15 億 6,900 万ユーロの引き揚げ超過から 43 億 3,400 万ユーロとなった。電気・

表3 オーストリアの主要国・地域別輸出入

	(単位:100万ユーロ, %)							
	輸出				輸入			
	2011年	2012年(暫定値)			2011年	2012年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	84,836	84,144	68.1	△ 0.8	93,552	92,915	70.4	△ 0.7
ユーロ圏	64,491	64,222	52.0	△ 0.4	77,041	76,032	57.6	△ 1.3
ドイツ	38,042	37,839	30.6	△ 0.5	50,050	49,545	37.5	△ 1.0
イタリア	9,345	8,445	6.8	△ 9.6	8,527	8,192	6.2	△ 3.9
フランス	4,975	5,631	4.6	13.2	3,760	3,733	2.8	△ 0.7
スロバキア	2,431	2,652	2.1	9.1	3,240	3,192	2.4	△ 1.5
非ユーロ圏	20,303	19,874	16.1	△ 2.1	16,511	16,883	12.8	2.3
チェコ	4,763	4,456	3.6	△ 6.4	4,879	4,967	3.8	1.8
ハンガリー	3,775	3,693	3.0	△ 2.2	3,654	3,749	2.8	2.6
ポーランド	3,409	3,444	2.8	1.0	2,433	2,545	1.9	4.6
英国	3,553	3,387	2.7	△ 4.7	2,018	2,178	1.7	7.9
スイス	5,986	6,232	5.0	4.1	7,045	6,871	5.2	△ 2.5
ロシア	2,936	3,235	2.6	10.2	3,333	4,094	3.1	22.8
アジア大洋州	8,939	9,219	7.5	3.1	11,931	12,212	9.3	2.4
中国	2,919	3,032	2.5	3.9	6,394	6,763	5.1	5.8
ASEAN	1,363	1,567	1.3	15.0	1,637	1,624	1.2	△ 0.8
日本	1,294	1,313	1.1	1.5	1,954	1,796	1.4	△ 8.1
韓国	935	946	0.8	1.2	586	747	0.6	27.5
インド	818	626	0.5	△ 23.5	558	553	0.4	△ 0.9
北米(NAFTA)	7,575	8,321	6.7	9.8	4,354	4,744	3.6	9.0
米国	6,389	6,937	5.6	8.6	3,764	4,119	3.1	9.4
中南米	1,651	2,058	1.7	24.7	1,143	948	0.7	△ 17.1
ブラジル	968	1,061	0.9	9.6	597	415	0.3	△ 30.5
アフリカ	1,455	1,628	1.3	11.9	2,166	2,496	1.9	15.2
湾岸協力会議(GCC)諸国	1,293	1,496	1.2	15.7	592	945	0.7	59.6
合計(その他含む)	121,774	123,470	100.0	1.4	131,008	131,964	100.0	0.7

[注1] EU域外貿易は通関ベース(輸出はFOB, 輸入はCIF), EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[注2] アジア大洋州はASEAN+6(日本, 中国, 韓国, オーストラリア, ニュージーランド, インド)に香港および台湾を加えた合計値。

[注3] ユーロ圏と非ユーロ圏の合計値がEU27に一致しないのは四捨五入処理および仕向け先不明分等を含むため。

[出所] オーストリア統計局

電子機器, 光学機器が26億9,100万ユーロと最大で, 以下自動車(5億3,900万ユーロ), 機械(3億1,900万ユーロ)と続く。非製造業では商業・修理業が16億6,500万ユーロ, 金融・保険が7億4,900万ユーロだった。

国・地域別にみると, ユーロ圏が34億1,500万ユーロと大きかった。中でもドイツが最大だが, 2011年の55億700万ユーロから21億7,800万ユーロへ6割減となった。近年, ロシアからの投資が増えており, 過去最大の9億3,400万ユーロに拡大, イタリア・オランダを抜いて2位の投資国となった。ロシアのほかに, ブラジル(3億8,200万ユーロ)も投資上位国に入り, 新興国が存在感を増している。オーストリアは中・東欧市場に関するノウハウやネットワーク, ニッチ分野での技術力, 質が高く勤勉な労働力などに定評があるが, 経済省傘下の投資誘致機関オーストリア経済振興公社(ABA)によると, 2012年は対内投資総額こそ前年比減となったが, 前年比10%増の201社の外国企業が新たに国内に拠点を設置した。

対内投資事例をみると, 最大の案件はメキシコの通信大手アメリカ・モバイルによる同業テレコム・オーストリアの株式22.76%取得だ。これに次ぐのは, ロシアの大手銀行ズ

ベルバンクがオーストリアのフォルクスバンクの国際部門であるフォルクスバンク・インターナショナルを5億500万ユーロで買収した案件だ。新興国企業による案件では, 中国(香港)の投資会社フェニックスツリーHSCインベストメントによるシュタイヤー・モーターズ(エンジン製造)の買収もあり, 中国企業による初の自動車関連企業買収として注目された。中国でのディーゼルエンジン需要増と同社の高い技術力が評価されたものだ。

2012年の対外直接投資は前年比27.3%減の129億5,700万ユーロに縮小した。業種別にみると, 金融・保険が61億5,700万ユーロで前年に引き続き最大であり, 全体のほぼ半分を占めた。大半が中・東欧の子会社への資本投

入とみられる。次いで専門的なサービス業が32億600万ユーロとなった。製造業は14.9%増の19億7,300万ユーロとなり, 多くの部門が前年比減となる中, 増加した。特に電気・電子機器, 光学機器, 化学・石油・ゴムと自動車が大きく増加した。国・地域別にみると, 中・東欧の多くの国を含むEU非ユーロ圏向けが40億8,800万ユーロでユーロ圏を抜いて最大となった。

欧州以外への投資は, 米国が前年の5分の1の1億7,800万ユーロに落ち込んだほか, 中南米も75.0%減の7億7,500万ユーロと多くの地域で大幅な減少となった。トルコが3.3%増の16億9,000万ユーロでEU域外では最大となった。電力・エネルギー大手フェアブントがトルコでの事業を拡大したことによる。大型の対外投資事例には外国企業がオーストリア法人を通じて第三国企業を買収した案件が多い。2012年の最大対外投資案件だったインターセメント・オーストリア(親会社はブラジルのセメント大手カマルゴ・コア)によるポルトガルの同業シムポール買収(報道では約40億ドル), 続く規模だったドイツの投資会社J.A.ベンキーザーのオーストリア法人による米国のコーヒーチェーン大手ピーツ・コーヒー&ティー買収(約10

表 4 オーストリアの業種別対内・対外直接投資<国際収支ベース, ネット, フロー>

	対内直接投資			対外直接投資		
	2011年		2012年	2011年		2012年
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
製造業	△ 1,569	4,334	-	1,717	1,973	14.9
電気・電子機器, 光学機器	△ 2,308	2,691	-	678	873	28.8
自動車	△ 195	539	-	46	425	823.9
機械	364	319	△ 12.4	530	186	△ 64.9
化学・石油・ゴム	142	294	107.0	△ 393	536	-
金属製品	104	191	83.7	227	105	△ 53.7
食品・飲料・たばこ	177	95	△ 46.3	172	5	△ 97.1
木材・製紙	35	76	117.1	139	△ 210	-
ガラス・石製品	94	72	△ 23.4	201	△ 21	-
その他製造業, 修理業	52	29	△ 44.2	94	54	△ 42.6
繊維・アパレル・皮革	△ 34	28	-	23	20	△ 13.0
商業・修理業	1,933	1,665	△ 13.9	1,056	863	△ 18.3
金融・保険	1,512	749	△ 50.5	7,030	6,157	△ 12.4
エネルギー・上下水・廃棄物処理	21	246	1,071.4	2,582	146	△ 94.3
運輸, 倉庫, 郵便	△ 151	238	-	△ 185	64	-
建設	48	152	216.7	△ 139	△ 53	-
公共事業・個人サービス	3,338	40	△ 98.8	408	169	△ 58.6
農業, 鉱業	△ 1	13	-	862	144	△ 83.3
ホテル・レストラン	11	△ 19	-	△ 2	3	-
その他企業向けサービス	979	△ 39	-	37	107	189.2
不動産	△ 27	△ 424	-	224	△ 41	-
情報, 通信	△ 8	△ 540	-	△ 105	170	-
専門的なサービス業	2,099	△ 1,500	-	4,322	3,206	△ 25.8
合計(その他含む)	8,185	4,915	△ 40.0	17,827	12,957	△ 27.3

[注] 2012年は暫定値。

[出所] オーストリア国立銀行

表 5 オーストリアの国・地域別対内・対外直接投資<国際収支ベース, ネット, フロー>

	対内直接投資			対外直接投資		
	2011年		2012年	2011年		2012年
	金額	金額	伸び率	金額	金額	伸び率
EU27	5,270	3,459	△ 34.4	7,968	6,520	△ 18.2
ユーロ圏	12,250	3,415	△ 72.1	4,107	2,432	△ 40.8
ドイツ	5,507	2,178	△ 60.5	3,449	373	△ 89.2
オランダ	△ 3,459	926	-	144	△ 4,142	-
イタリア	9,668	460	△ 95.2	△ 350	830	-
非ユーロ圏	△ 6,980	44	-	3,861	4,088	5.9
英国	△ 7,447	171	-	1,115	354	△ 68.3
ポーランド	90	71	△ 21.1	196	690	252.0
ルーマニア	△ 9	△ 6	-	1,009	1,180	16.9
チェコ	23	△ 36	-	471	1,367	190.2
ロシア	532	934	75.6	1,287	227	△ 82.4
アフリカ	△ 174	321	-	164	108	△ 34.1
スイス	949	239	△ 74.8	683	1,540	125.5
中南米	1,464	211	△ 85.6	3,104	775	△ 75.0
ブラジル	745	382	△ 48.7	2,141	119	△ 94.4
クロアチア	△ 39	71	-	544	328	△ 39.7
米国	△ 1,020	64	-	878	178	△ 79.7
トルコ	122	27	△ 77.9	1,636	1,690	3.3
ウクライナ	△ 6	8	-	709	591	△ 16.6
アジア	751	7	△ 99.1	173	△ 7	-
日本	59	77	30.5	21	△ 5	-
中国	△ 109	45	-	△ 304	△ 599	-
韓国	△ 61	△ 52	-	26	52	100.0
シンガポール	118	△ 42	-	5	303	5,960.0
インド	5	△ 1	-	△ 23	38	-
合計(その他含む)	8,185	4,915	△ 40.0	17,827	12,957	△ 27.3

[注] 2012年は暫定値。

[出所] オーストリア国立銀行

億ドル)などが好例だ。オーストリア資本による案件としてはライフアイゼン銀行によるポーランドのポルバンク買収(約 4 億 6,000 万ユーロ), エネルギー大手 OMV がノルウェー北海油田「エドワルド・グリーク」鉱区の採掘権 20%をドイツ同業 RWE から取得(2 億 7,900 万ユーロ)した案件, 自動車部品卸売りのフラウンターがスウェーデンの自動車部品メーカーのグノテクを買収した(2,500 万ユーロ)案件などがあつた。

■ 過去最大となった対日輸出

対日貿易は, 輸出が前年比 1.5%増の 13 億 1,300 万ユーロと, 過去最大だった前年を上回った一方, 輸入が 8.1%減の 17 億 9,600 万ユーロと減少した。その結果, 対日貿易赤字は前年の 6 億 6,000 万ユーロから 4 億 8,300 万ユーロに縮小した。

対日輸出の最大品目である機械・輸送用機器(構成比 37.1%)は前年比 1.0%増にとどまった。道路輸送用機器(16.5%)が 3.3%増と伸びた一方, 産業用機器(5.7%)は 12.8%減と不振だったことによる。原料別製品(26.6%)のうち, 金属製品(11.0%)は家具用金属部品が大幅増となったことから, 21.8%増となったが, コルク・木材製品(10.0%)は 7.7%減だった。

一方, 対日輸入は円高と消費低迷により, ほとんどの品目が減少した。最大の品目である機械・輸送用機器(構成比 73.9%)が前年比 8.5%減, 雑製品(11.8%), 化学品(7.3%), 原料別製品(6.3%)などもそれぞれ 6.6%減, 4.4%減, 10.2%

表6 オーストリアの主要対内直接投資案件(2012年)

被買収企業(事業)		買収企業		時期	投資額	概要
業種	企業名	企業名	国籍			
通信	テレコム・オーストリア	アメリカ・モビル(通信大手)	メキシコ	6, 9月	約10億ドル	買収金額は未公表。オランダ法人を通じて株式の22.76%を取得
金融	フォルクスバンク・インターナショナル	ズベルバンク(金融)	ロシア	2月	5億500万ユーロ	エスターライヒツシェ・フォルクスバンクの国際部門を買収
ソフトウェア	UC4ソフトウェア	EQT(ソフトウェア)	スウェーデン	8月	2億2,000万ユーロ	EQTはITプロセス自動化ソフトウェアの大手
不動産	ユーロプラザ4(EP4)	ユニオンインベストメント(投資会社)	ドイツ	10月	1億5,000万ユーロ	ウィーン市中心部のオフィスビルをカプシュ不動産から買収
不動産	ウィーン西駅バーンホフシティ	アクロン(不動産投資)	スイス	10月	8,800万ユーロ	ホテルと小売り19店舗分のスペースを持つ駅ビルを買収
スポーツ用品	ブルートマト	ズーミーズ(スポーツ用品販売)	米国	6月	5,950万ユーロ	スポーツ用品販売大手がスケートボード、スノーボード用品製造企業を買収
自動車部品	セラムグループ	イビデン(電子・セラミック用品)	日本	6月	5,800万ユーロ	フラウエンタール(自動車部品卸売りの)排煙浄化装置、自動車用触媒担体製造子会社の株式100%と不動産管理子会社の株式50%を取得
移動通信システム	3Tコミュニケーションズ	セブラ(移動通信システム)	英国	5月	800万ユーロ	両社ともTETRA(デジタル公共移動通信システム)のベンダー
雪崩ビーコン	ピープス	ブラックダイヤモンド(登山・アウトドア用品)	米国	10月	800万ユーロ	登山・アウトドア用品大手が100%買収
エンジン	シュタイヤー・モーターズ	フェニックスツリーHSCインベストメント(PTC)(投資会社)	中国(香港)	9月	n.a.	自動車などのエンジン製造
カーシェアリング	デンツェルモビリティカーシェアリング	ジップカー(カーシェアリング)	米国	7月	n.a.	ジップカーは世界最大のカーシェアリング企業
精製ゲル	BIAセパレーションズ	昭和電工(化学)	日本	12月	n.a.	昭和電工は、産業用精製ゲル開発製造での業務・資本提携

〔出所〕各社発表および報道などから作成

減となった。

日本企業による対オーストリア直接投資は、円高を背景に前年比30.5%増の7,700万ユーロに拡大した。2012年の投資事例としては、イビデン(電子・セラミック用品)が自動車部品卸売りのフラウエンタールから排煙浄化装置および自動車用触媒担体製造子会社であるセラムグループを5,800万ユーロで買収(6月)、昭和電工(化学)が産業用精製ゲル開発製造BIAセパレーションズと業務・資本提携契約を締結した(12月)。非製造業では、ネット販売の

楽天が11月に現地法人を設立し、電子商取引市場に進出した。このほかテルモ(医療機器)が4月に支店を開設した。

オーストリア企業による対日直接投資は低調で、500万ユーロの引き揚げ超過となった。新規の対日投資事例はなかったが、高性能アナログIC製造amsが日本での販売サポート体制強化を目的として品質保証ラボを設置すると2012年3月に発表した。

表7 オーストリアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ,%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2011年		2012年			2011年		2012年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送用機器	482	487	37.1	1.0	機械・輸送用機器	1,452	1,328	73.9	△ 8.5
道路輸送用機器	210	217	16.5	3.3	道路輸送用機器	585	536	29.8	△ 8.4
産業用機器	86	75	5.7	△ 12.8	電気・電子機器	237	209	11.6	△ 11.8
電気・電子機器	36	39	3.0	8.3	産業用機器	166	154	8.6	△ 7.2
原料別製品	336	349	26.6	3.9	事務用機器	175	146	8.1	△ 16.6
金属製品	119	145	11.0	21.8	通信機器	115	103	5.7	△ 10.4
コルク・木材製品	142	131	10.0	△ 7.7	一般機械	106	101	5.6	△ 4.7
雑製品	162	162	12.3	0.0	雑製品	227	212	11.8	△ 6.6
光学・医療・計測・制御機器	49	61	4.6	24.5	光学・医療・計測・制御機器	103	98	5.5	△ 4.9
化学品	155	154	11.7	△ 0.6	写真・光学用品・時計	57	49	2.7	△ 14.0
医薬品	60	55	4.2	△ 8.3	化学品	137	131	7.3	△ 4.4
原料	98	97	7.4	△ 1.0	医薬品	22	19	1.1	△ 13.6
コルク・木材	79	83	6.3	5.1	原料別製品	127	114	6.3	△ 10.2
食品・動物	57	57	4.3	0.0	金属製品	24	25	1.4	4.2
合計(その他含む)	1,294	1,313	100.0	1.5	合計(その他含む)	1,954	1,796	100.0	△ 8.1

〔注〕2012年は暫定値。

〔出所〕オーストリア統計局